

◇ 「旭丸」、船内を抗菌・抗ウイルス加工 ＝竹之下副社長「船員の健康と安全を守る」＝ ＝旭海運、神鋼の「ケニファイン」導入＝

旭海運は、自社保有船「旭丸」の船内に神戸製鋼所が開発した高機能抗菌・抗ウイルスめっき技術「ケニファイン」をトライアル導入した。不特定多数の船員が触る船内の共用部に、ケニファイン技術を活用したシートやめっき板、粉末化した塗料等を施し、船内の抗菌状況を実証する。竹之下登取締役副社長は「船員の健康と安全・安心を守りたい」と導入の目的を語り、他船への展開にも意欲を見せる。

ケニファインは従来の抗菌剤と比べて10倍以上の抗菌性と50倍以上の防かび性が確認されている抗菌技術。めっき処理やアルマイト処理、粉末化により多様な形態で活用できるため、食品や医療福祉などの幅広い用途で普及している。効果はめっきやシートが剥がれない限り、半永久的に持続。複数社が技術ライセンスを取得しており、旭海運は高秋化学の協力を受け、船内にケニファインを導入した。

旭海運は船内の内、電子海図情報表示装置(ECDIS)の持ち手やブリッジの電話の受話器、共用部のドア面など、不特定多数の船員が触る箇所にケニファインシートやめっき板を貼付。ドアノブもケニファインめっき加工を施したものに交換し、ジムのフロアにはケニファイン濃縮抗菌剤入りの塗料を塗装している。日本に寄港した際、定期的にケニファインの貼付部分と非貼付部分の細菌量を比較し、効果を検証。「旭丸」のほか、共有のばら積み船“EL SOL SALE”へも導入し、導入効果を比較する。現場の乗組員からも設置場所等のアイデアを募りながら、船陸間の双方向のやり取りを通じて船内の衛生環境を検証・改善していく。

竹之下副社長は「決して安価な技術ではな

いが、船員の健康と安全・安心を守るため必要な投資。実証結果に関わらず、導入を進めていきたい」と今後の展開に意欲。船会社として、船員の生活環境を改善する姿勢を示す。船舶管理安全グループ安全環境チームの川口啓介チームリーダーは「船内の空気は循環しており、誰かが風邪をひくと瞬く間に広まってしまう。船内の衛生環境を整え、健康リスクが小さく、働きやすい環境にしたい」と船内環境を改善する必要性を説明する。



「ケニファイン」シートを貼ったドア

旭海運は神戸製鋼所のインダストリアルキャリアとしてケニファイン技術に着目。竹之下副社長は「海事分野で神戸製鋼所の技術のパイロット（水先人）になりたい。ケニファインは船員の健康を保つことができる技術。当社だけで留めるべきものではない。抗菌技術は多くあるが、ケニファインには豊富な実績がある。興味を持つ会社が増えれば良い」と神戸製鋼所が持つ技術の船用利用に意欲を見せ、ケニファインを用船や他船社を含めて幅広く紹介する意向を示す。ケニファインには藻を抑制する効果もあることから、将来的には船体汚損の防止にも同技術を活用すること

も構想している。海洋生物の付着を防ぐことで、推進効率の維持と海洋環境の保全を図る方針。神戸製鋼所との関係性を活かした ESG（環境・社会・ガバナンス）経営を推進する。



船内での検証